

有明海水産資源回復技術確立事業※

ウミタケ種苗生産技術開発試験 (ウミタケ稚貝放流試験)

重久剛佑・野田進治・大庭元気

有明海水産資源回復技術確立事業において、ウミタケ資源の回復を目的として、種苗生産した稚貝の放流試験を行ったのでその概要を報告する。

方法

放流は、2020年5月～6月に、当センターで種苗生産した稚貝を用いて、沖合の漁場造成地(定点A)および干潟域(定点B)で実施した(図1)。試験区は、両地点において、①ネットロンネット区(目合い8mm)で作成したカゴ1.0m(縦)×1.0m(横)×0.1m(高さ)の各辺に直径10mmの異径鉄筋を結束したもの(図2)、②カゴ区(アロン化成野菜収穫カゴφ37cm×28cm(高さ)に干潟の泥を入れ、上部をネットで覆ったもの(図3))とし、各区6例とした。また、定点Bのみ③囲い網区(4.0m(縦)×2.0m(横)の範囲に周りを1m間隔で塩ビを立て、ネットロンネットで囲いをしたもの(図4))を3例行った。各試験区への稚貝収容個数は、①1,000個/区、②150個/区、③1～2万個/区とした。



図2 ネットロンネット区



図3 カゴ区



図4 囲い網区

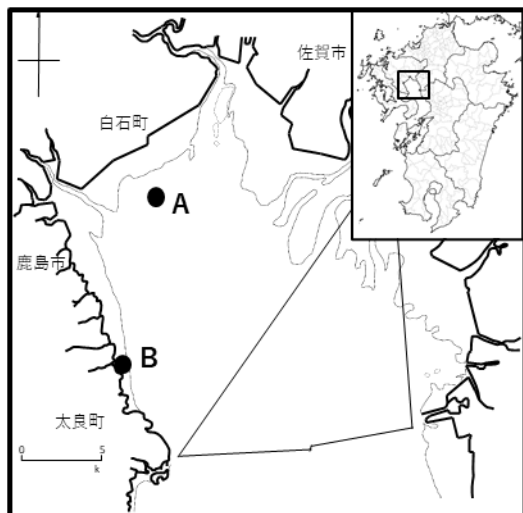


図1 ウミタケ放流地点図

結果

放流結果を表1に示す。種苗生産した殻長2.4～3.4mmの稚貝約24.7万個稚貝を、2020年5月23日および6月5日にB地点に、6月1日にA地点へ放流したが、令和2年7月豪雨¹⁾の影響で区画が埋没または流出し、7月末の調査では、生残した個体が確認できなかった。

表 1 稚貝放流結果

放流日	地点	放流個数	放流サイズ	放流試験区	備考
5/23	B	12.3万個	2.4mm	①,②	豪雨により消失
6/1	A	4.8万個	3.1mm	①,②	
6/5	B	7.6万個	3.5mm	①,②,③	

文 献

- 1) 廣田健一郎・三根崇幸・岩永卓也・野口浩介・津城啓子・豊福太樹・川崎北斗・佃 政則・川原逸朗
(2020) : 令和2年度7月豪雨における有明海佐賀県海域の海況変化と漁業への影響について. 佐有水研報, (30), 59-72.